

# あいめーる

AUTUMN

## 愛隣館通信

平成 30 年 11 月 20 日発行 〒861-0551

発行 熊本県山鹿市津留 2022

社会福祉法人 愛隣園 TEL 0968-43-2771

障害者支援施設 愛隣館 FAX 0968-43-2793

発行責任者 三浦貴子 <http://aileans.com>

編集 広報チーム E-mail

キャリアピジョン [aillinkan@magma.jp](mailto:aillinkan@magma.jp)



熊本県立美術館内：山品氏作品前にて（大林さん・猪股さん・久留さん・河津さん）

山品さん「開会式の時  
紹介してもらった時はと  
ても緊張しました。両親も  
見に来てくれたので嬉し  
いです」

野尻さん「たくさんの方  
に作品を観てもらってと  
ても嬉しいです。これから  
も頑張って描いていきたく  
いです」と声を弾ませなが  
ら話してくれました。

十月二日（火）～十四日（日）熊本県立美術館本館文化交  
流室に於いて、生の芸術アール・ブリュット展覧会V.O.I.  
4を開催しました。（主催：アール・ブリュットパートナー  
ズ熊本 共催：熊本県立美術館、社会福祉法人愛隣園）

約百名の関会式には、愛隣館から野尻三正さん、山品聡美  
さん選出作家二名が参加。総勢二十一名の作家による作品展  
示で、来場者総数二〇五六名。会場でのアンケート回答数五  
百五十八件と盛会でした。

愛隣館、デイケア、愛隣倶楽部、びあびあ等、多くの利用  
の方々が、生の作品を近くで観覧し、表現された作家さんの  
個性、繊細で魂のこもった作品に感動しました。

出展された、山品さん、野尻さんへのインタビューでは、

生の芸術アール・ブリュット展覧会  
V.O.I. 4 熊本県立美術館本館



## バンコクとの障害児者支援交流



館長 三浦 貴子

十月二十日から四日間、JICAと熊本の障害者支援交流プログラムで、タイ、バンコク市のラジャヌクル障害児支援センターを訪問しました。

三年前には、そのセンターから医師、看護師等の方々七名を、愛隣館視察研修にお迎えし、昨年は熊本市内で熊本とバンコクの障害者アート展を開催協力するなど、数年来の交流です。

別ルートの要請により、昨年はバンコクで開かれた障害児国際学会の防災分科会でスピーチ。その学会のリーダーが、ラジャヌクルのアンボン所長（精神科医）だったこともあり、今年にはバンコクに施設訪問と、日本の障害者福祉のあらまし障害者基本法と障害者総合支援法、芸術活動支援について講義することができました。

とはいうものの、日本で学んだ通訳の人が、私の法律関係の資料に緊張されていたので、かいつまんでかいつまんで話し、英語も交えて説明するなど四苦八苦。サービス理念は伝えやすく、制度を伝えるのは難しいと感じました。

何のバリアーも無いのが、熊本のオール・ブリュット作品の映像でした。霧が晴れるように伝わる力で、センタースタッフの皆様を引き込みました。

ラジャヌクルセンターには、アートセラピーセッションがあり、本格的に取り組まれています。展示作品で、ラマの世と仏像の絵が多いこと、ご当地

感があります。紙粘土でソウからスカンクまで、実に多様な動物達の森。小さく精緻に、この上なく愛らしく作る青年の作品群も圧巻でした。そして、改めてアートなど、言葉によらない（ノンバーバル）コミュニケーションの大切さを思う交流となりました。

ラジャヌクルの構造や組織のあり様は紙面の都合で割愛しますが、①プログラムに忠実な実践②スタッフの仲の良さ（家族ぐるみ）と笑顔③英語を使うスタッフが多いこと④女性のスタッフがリーダーを担っていること、などが心に残っています。

また、バンコクの国連事務所に、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）の職員、秋山愛子氏をお訪ねし、バンコクの障害者の作業所で作り、国連グッズとなったチョコレートの話、障害者と災害等の取り組みを伺いました。目を見張るような発展を続けるバンコク、限りなく親切な人々との出会いで又、大変好きになりました。

### 避難訓練

ケア課 石貫 栄嗣

九月十一日（火）十六時より、山鹿市消防署立会の元、夜間の火災を想定した避難訓練を行いました。今回は二号館の利用者、男性十四名、女性七名の計二十一名とスタッフ四名での避難誘導訓練となりました。

スタッフは火元の確認、初期消火、館内放送、消防署との通信、避難誘導を手分けし、避難後に人員報告を行いました。

### 避難訓練後、

消火器の取り扱いと消火訓練にケア課、デイケア、愛隣倶楽部、ぴあハウスより多数のスタッフが参加しました。

インカムを使用した初めての避難誘導でしたが、避難で動いている

際や、非常ベルが作動している所では聞き取りにくいことが分かりました。

最後に、その時の状況によっては避難経路を変更し、煙でいっぱいになった廊下を避難しないようにと消防署より助言がありました。



### 新しい仲間

入所者

猪股 敦



皆さんこんにちは、私は七月十五日に入所した猪股敦です。

これまで十七年間熊本の長嶺で自立生活をしていましたが、これからのことや体調のことなどを考えここに入りました。

ただまさしと将棋とオセロをこよなく好きで、特にさださんは心のお師匠さんだと思っています。それと日本史と三国志も大好きで、三国志の話を始めたら止まらないほど好きです。まだ入って間もないですが、職員さんや入居者さんとも仲良くなってきたので、これからもよろしくお願ひします。



入所者

野尻 三正

八月三日に入所した野尻三正です。

以前のグループホームの職員さんと別れるのが辛く、愛隣館に慣れることができたか心配でしたが、職員さんや利用者さんが気さくに話しかけて下さり、友達もたくさんできました。

月見の宴や馬追い見物など、今まで経験したことのない季節の行事もたくさんあり楽しく参加しています。また、一日三時間くらいクーパーペンシル画を描いています。職員さんが「わー綺麗」と声をかけて下さるのが嬉しいのです。

これからも、リハビリで歩行訓練を頑張り、色々な行事や活動に参加していきたいと思ひます。皆さん、よろしくお願ひします。



入所者

渡原 浩

初めまして、七月十九日に愛隣館に入所しました邊原浩（へばるひろし）です。

十九歳の時に夜間高校に通いながら大工の仕事をしていました。その仕事中の転落事故で体が不自由になりました。

病院退院後、訓練学校に通い仕事に関する技能や運転免許証を取得し、仕事をしながら地域生活をしていました。

将棋が好きで、対戦相手を探しています。

まだまだ不慣れですが皆さんよろしくお願ひします。



デイケア利用

早野 恵美

私は元々健康な体ではありませんでしたが、三十歳半頃の頃、仕事をしながら足の不具合を感じました。足を治す為のリハビリは、悪戦苦闘の日々を送っていました。

その後、平成三十年四月治療の為、二ヶ月の入院。リハビリも兼ね、自分の機能向上の為、八月十日より愛隣館のデイケアに週二回お世話になっております。

職員の皆様や周囲の皆様の心尽くしに感謝し、陶芸教室で、色々な物を教えて頂き、作り出す事の喜びを感じ、楽しい毎日です。

色々な諸活動を通して、活気を生み出しています。まだ体が、完全ではありませんので、ご面倒をお掛けしますが、今後とも、宜しくお願いします。

### 新人職員紹介



ケア課

山下 久美子

皆様、こんにちは、今年六月一日よりパートとして、本館で働かせて頂いております。山下久美子です。和水町に住んでおります。

今まで介護の仕事は、訪問ヘルパーをやっておりました。

同じ介護の仕事でも、内容が全然ちがいますので、手間取っております。

まだまだ一人前では、ありませんが、先輩スタッフの方々を見習い、利用者様の気持ちを考えて仕事をして行きたいと思っております。

今後共、よろしくお願ひ致します。



ケア課

黒木 伸二郎

皆さんこんにちは、今年の六月一日から愛隣館で働かせて頂いております黒木伸二郎です。

出身は川辺です。今は古閑に住んでいます。

仕事は、お茶配り、通院、ショート様の送り迎えをしています。

入居の方々にけがをさせない様に注意して車に乗ってもらっています。

これからも安全運転を忘れず、一日一日頑張っていくまわすので、今後ともよろしくお願ひ致します。

月見の宴

九月二十四日(月)愛隣館食堂に於いて、月見の宴が開催されました。

今回は有働様、河野様に加え第三者委員の山西ふじ子様をお迎えしての短歌・俳句の発表会です。応募総数は短歌が三十五首、俳句が五十五句と、昨年よりやや少なくなったものの、何れの作品も出来映えは素晴らしく、その多くが賞の対象となりました。また、第三者委員の栗川亮一様より栗川賞として、

熊本県伝統工芸品「来民 渋川うちわ」(歌入り)が贈呈されました。



選句の合間には、愛隣館30周年を振り返るDVDの上演。地域の方達に支えられながらの歴史に感慨深いものがありました。

平成三十年度 月見の宴入選作品

三浦牧子名誉理事長賞

病みに伏し ふと見上ぐれば おぼる月

子を案じつつ 淋しき夕餉

山口 博美

月の色 昔と同じ その姿

永遠の平和を 切に祈れり

富田 正美

妹の 迎えにたより 母に会う

元気な笑顔に 皆に感謝す

鶴崎 さおり

庭先で キンモクセイの花びらが

優しいにおい こぼれ舞い散る

池田 良子

朝顔や 畑のすみで ひそりと

池田 良子

夏祭り どこ吹く風の 車椅子

竹熊 和孝

理事長賞

我が心 曇った日にも 雨の日も

常になりたや 明るき月に

秋愁(猪股敦)

顔晴れと こころの隙間 照らす月

坂田 照美

館長賞

三十年 出会いと別れ 走馬灯

か(ぼ太郎(福原隆博)

愛隣荘賞

ありがとう いも隣に いてくれる

母に感謝の お月見の夜

山口 さとみ

顔晴れと こころの隙間 照らす月

坂田 照美

短歌(仄の部)

一席 病みに伏し ふと見上ぐれば おぼる月

子を案じつつ 淋しき夕餉

山口 博美

二席 平山で 傘寿の宴 帰り道

月に願うは十五 母の健体

後藤 雅子

三席 やわらかな 月の光を 浴びながら

旧友の笑顔を 思い出す夜

富田 正美

短歌(羅詠の部)

一席 ひとり来て たそがれせまる 川べりに

たたずみ歌う 「いい日旅立ち」

二席 庭先で キンモクセイの花びらが

優しいにおい こぼれ舞い散る

池田 良子

三席 夏山の 蟬の声聞き 空仰ぐ

入道雲と 澄んだ青空

吾亦紅(牧野和起子)

俳句(仄の部)

一席 満月に イエスキリスト 思うとき

原チャコ(原智佐子)

二席 散歩道 川のせせらぎ 月うつす

丸山 光子

三席 「溜月だ」 菊鹿で母も みるかな

吉里 京子

俳句(羅詠の部)

一席 彦岳の 稜線くまがり 秋の空

龍之介(平川龍次)

二席 眼を閉じて 今年は燈籠 夢の中

松尾 隆一

三席 二重奏 テレビの音と 虫の声

山下 四季子

城北高等学校 竹原校長賞

散歩道 川のせせらぎ 月うつす

丸山 光子

第三者委員 栗川賞

平成の 時代が終わる 終戦日

元号変われど 平和よ続け

米崎 みどり

我が心 曇った日にも 雨の日も

常になりたや 明るき月に

秋愁(猪股敦)

二学期に めいぼが変わるよ 赤とんぼ

ベランダに 団子並べて 月を見る 月うさぎ 杉山伸一

山鹿市観光協会 高野会長賞

顔晴れと こころの隙間 照らす月

二重奏 テレビの音と 虫の声

平成の 時代が終わる 終戦日

元号変われど 平和よ続け

明治学院大学 平野賞

暗闇に うちわを持ちて 空を見る

こころのまなこ 月を見る

顔晴れと こころの隙間 照らす月

暑き日に 花火の音と うるわしき

平成灯籠 こ女たち

茜雲 ひろがる中に 甘い愛

三菱総合研究所 高森賞

やわらかな 月の光を 浴びながら

旧友の笑顔を 思い出す夜

もう一度 朝露を受け キラキラと

野山の新芽 見たいと思う

顔晴れと こころの隙間 照らす月

朝露の 涼しき風に 犬の声

龍之介 下川龍次

高根 英子

坂田 照美

山下 四季子

米崎 みどり

丸山 光子

坂田 照美

浩姫 村上浩子

浩姫 村上浩子

富田 正美

池田 良子

坂田 照美

山鹿燈心会 代表世話人 三浦賞

平山で 傘寿の宴 帰り道

月に願うは 母の健体

東京へ 親子で行ける よるこびを

梅雨の晴れ間に 富士山見えて

かんおけに 両足入った 月うさぎ

月うさぎ 杉山伸一

月に問う そちらの祭りは 何がある

大當 由紀子

後藤 雅子

吉本 やす代

### 俳句選評

今年には愛隣館設立当時から利用されていた方々が多数お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りしたいと思います。昨年の月見の宴に「月見れば逝った人々思い出す」と言う俳句がありました。このように亡くなった人々の俳句を作ることには供養になります。「人逝きし大接近の火星かな 敏之」

俳句の選評 「月の部」

一席 原智佐子さんの「満月にイエスキリスト思ふとき」

俳句を長くやってますが、こんな句は初めてです。良く出来ていますが、「満月や」とすれば、もっといい。

二席 丸山光子さんの「散歩道川のせせらぎ月うつす」

川のせせらぎを聞きながら、川には月が映っているに違いないと、視力障害の作者は想像しながら、散歩しています。研ぎ澄まされた聴覚によって、すべてを掴んでいます。



三席 吉里京子さんの「満月だく菊鹿の母も見てるかな」

「満月だく菊鹿の母も」と、菊鹿と言つ固有名詞が利いています。

「雑詠の部」

一席 下川龍次さんの「彦岳の稜線くつきり秋の空」朝に夕に我が部屋から見える風景ですが、今年は稜線がくつきりしない日が多かったし、秋の空は変わりのやすい。だから、「くつきり」と言いたいところですが、それを読み手に想像させるのが俳句です。「言いおせて何がある」とは、松尾芭蕉の至言です。

二席 松尾隆一さんの「目を閉じて今年は灯籠夢の中」

毎年、見に行っていた人が何かの理由で行けなかったのでしょう。今年も山鹿灯籠祭りに行きたかったのに。

三席 山下四季子さんの「二重奏テレビの音と虫の声」

「二重奏やテレビの音と虫のね」といまいしょう。

## 天草日帰り旅行

ケア課 中田 有美

九月六日(木)、利用者四名・職員四名にて天草日帰り旅行に行ってきました。

行き車の車の中では海が見たい！と言われている利用者さんが多く、海が見えたときはみなさん笑顔になられていました。着く頃には食事の時間になったので、リゾラテラス内で海を見ながらシーフードカレーを食べました。「景色はこっちがいいけどカレーは愛隣館の方がいい」など沢山会話をしながら食べ、みなさん楽しそうにされていました。



普段見る事ができない景色や食事で、利用者さんの笑顔が沢山みれて良かったです。

## 愛隣館デイケア陶芸教室 びあびあ作品展

十月二十日(土)～二十一日(日)、天聴の蔵で「きすなの会とその仲間たち作品発表会」が開催され、愛隣館デイケア陶芸教室の皆さんと共に地域活動

支援センターびあびあも協力出展しました。

前日のディスプレイから、びあびあ職員・利用者で行い、絵手紙・パステルアート教室で描いた作品。また、絵画やクラフト作品、色鮮やかな指ぬき等多数展示しました。

展示会に来られた方は、スケッチブックに描かれた水彩画やペン画をめくり、細かな描写に感心し見入っておられました。

たくさんの方々に、びあびあの活動及び作品を観て頂くことができた利用者の励みになり自信に繋がったように思います。



## ふれあいシヨギング大会

十月八日(月)菊陽町にて、「くまもと車いすふれあいシヨギング大会」が開催され、愛隣館からは河津政男さん、永田勝利さん、福原隆博さん、前田秀之さん、田中正人さん、中本あけ美さんの六名の利用者が出場しました。

週末の台風の影響が心配でしたが、澄み渡る青空の下、大勢の参加者やボランティアの学生とのふれあいを通して楽しい時間を過ごしました。

シヨギング後は毎年恒例の抽選会が行なわれ、河津さんが商品券を見事引き当てられました。

## 障害者スポーツ大会 in 福井

デイケア利用 坂田 照美

十月十三日(土)～十五日(月)福井県で開催された「第18回全国障害者スポーツ大会」に、熊本県選手団として、陸上競技に出場しました。

最終日にビンバック投競技があり、周りが皆強豪に見え緊張する中、思い切って投げた二投目が11m 65cm 飛び大会新記録でした。

私は、毎日夜間帯は酸素吸入が必要で、酸素会社の全国ネットワーク支援で、宿泊先に酸素を設置してもらい、安心して競技に臨むことができました。障害者の外出支援配慮が充実することで、諦めていた事が夢や希望に変わり、「個々に備わった可能性を拡げることができる」と、他県の選手と交流する中で感じた大会でもありました。



『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアビジョンが担っています。